

## 2018 年度事業計画書

当、公益社団法人マスコミ世論研究所は、平成 30 年度次のような事業を実施する予定である。

### 1. 諸分野における時事問題について、マスコミおよび当事者視点による情報の普及、及び世論の健全な形成を促進する事業（草の実アカデミー）

高度情報社会の民主主義は、大衆の日常の声の積み重ねから発せられる、権力と拮抗する厚みを持った世論の存在によって保たれるとの上田哲初代理事長の理念に基づき、本来あるべきアカデミズムとジャーナリズムの視座を引き受け、圧倒的な大衆（＝草の実）の日常の声の結集を図る場として機能することを目指している。

#### [1] 講演会、セミナー等の開催

##### ① 講演会・セミナーの開催

諸分野における時事問題を、マスコミ情報だけでは分からない実際の現場の視点から理解し、開かれた議論を行うことを目的として、講演会や公開セミナー等を開催する。講師として、主体的立場にある有識者、あるいは深い知見を有する当事者らを招聘する。

原則年 12 回、毎月第 3 土曜の開催とする。テーマおよび講師は、担当理事を中心に企画会議にて決定する。各理事やこれまでの講師陣からもこの企画委員に加わってもらう。

併せて、この講演会・セミナーを、マスコミ、ミニメディアからブログ、ツイッター、フェイスブック、街頭宣伝まで、あらゆる分野と手法において継続的に言論活動を行っている個人・団体の相互の交流を図る場とする。

##### ② 講演会・セミナーのインターネット中継と動画の保存公開

講演会やセミナーはツイートキャスティングで中継し、映像を保存する。その映像は当法人が運営するウェブサイト（草の実アカデミー・ブログ）などからも、一般に公開する。

##### ③ ホームページやメールマガジンの運営

「草の実アカデミー・ブログ」や「草の実アカデミー・メルマガ」（原則月 1 回以上発行）を通じて、講演会やセミナーなどの活動予定、および実施した講演会等の内容についてタイムリーに広く報じる。

##### ④ 講師交流会の開催

講師陣の交流会を開き、情報交換や多方面との連携を図る。

#### [2] マスコミ情報の収集・分析

##### ① マスコミ情報の収集・分析

諸分野における時事問題の構造や特性、論点を分かりやすく紹介するため、マスコミによって流通する情報と、マスコミが触れない情報も含めて継続的に収集・分析し、一般に公開する。

ある時事問題に関する取材・著作・制作活動において際立った業績を残している方や、中心的立場にある当事者である方へのインタビュー（取材）を主として行う。その他に、新聞、雑誌、テレビ番組、ミニコミ、政府刊行物・官報などからの情報収集を行う。全国紙と地方紙における情報の違いや、世論調査の差異についても注目する。

## ② 調査結果の公開

現在上の調査結果は主に講演会・セミナーの企画に反映されている。

また、「草の実アカデミー・ブログ」や「草の実アカデミー・メルマガ」を利用して、議論・研究されたテーマについての有益な情報提供を行う。

## ③ インターネット「世論力テレビ」局

過去の調査結果の一部についてはインターネット「世論力テレビ」局で、番組アーカイブやデータベースとして提供している。

## [3] 今年度の重点テーマ

上記の講演会・セミナーの開催、及びマスコミ情報の収集分析を実施する上で、次の3点のテーマについては昨年度に引き続き強化する。

- ① 2013年12月に成立し、2014年12月に施行された、いわゆる「特定秘密保護法」、2016年5月に成立した「刑事訴訟法の一部を改正する法律案」、2017年6月に成立したいわゆる「共謀罪」の三法に関して、その実態や影響を調査・把握する。
- ② 上記に関連して、専門家や当事者らを招いて講演を行う。
- ③ 公正で民主的な選挙の実現に関して考える。市民選挙制度審議会など具体的に公職選挙法改正試案を考察する。さらに、積極的無党派の主権者による運動に焦点を当て、選挙や社会変革に向けた動きを紹介・分析する講演会やシンポジウムを実施する。

## 2. 一般市民が語る戦場体験の記録・保存・継承に関する事業（戦場体験放映保存運動）

### [1] 世論動向の調査、研究

#### ① 戦場体験のインタビュー記録の収集

“見たまま・聞いたまま”のナマの語りによってあの戦場の実態を語り伝えるため、元兵士世代へのインタビューを映像で記録する。体験者の減少が言われて久しいが、私たちの推計ではまだ全国に10万人規模の戦場体験者がお話を出来る健康状態でいることが分かった。その一人でも多くの体験を集めるべく、本年度は改めて証言記録の収集に注力する。

#### (ア) 「戦場体験 聞き取り全国キャラバン」の再出発

2010年～13年までに行われた13回の全国キャラバンと4回の沖縄キャラバンでは、350人以上の地域性豊かな証言を収集した。

昨年全国で開催した「戦場体験者と出会える茶話会」には、まだまだ新たな体験者の来場があった。また遠隔地や過疎地で暮らす体験者の聞き取りの機会もある。

そこで改めて新たな体験者の掘り起こしに取り組み、3カ年を目安に再度全国を一巡したい。具体的には下記のような方法を考える。

- ・戦争体験者を求めるハガキ付きのチラシを作成。ご本人、ご家族、知人を対象に広く頒布する
- ・会員やこれまでのイベント参加者に、上記チラシを配布、また地方紙・ミニコミ、地域イベントなどの情報提供を呼びかける
- ・小規模の自治体を中心に体験者探しの相談をする
- ・遠隔地での収録では、その地域の過去記事の検索、現地での情報収集を併せて行う
- ・僻地の移動スーパーへのチラシ配布の協力依頼、団地の集会場にチラシを置けないかなど試みる。体験者の子ども世代に呼びかけることも重視する

- ・全国キャラバンの様子はブログや SNS と連動して伝え、新たな情報を収集する
- ・ボランティアが参加しやすい北関東、今後のイベント開催に繋げたい大阪、広島、北九州は特に掘り起こしに力を入れる

(イ) 介護施設との連携

調査によれば体験者の過半は都市部に住んでおり、介護施設での聞き取りの促進は欠かすことが出来ない。この数年課題としつつ軌道に乗っていない現状だが、個別に施設入居者の取材依頼はあり、ご本人にもご家族にも喜ばれている。

北区・豊島・板橋・練馬などの地元を手始めに、首都圏の介護施設に上記チラシの設置依頼や体験者紹介の相談をする。取材結果はご本人やご家族はもちろん、施設関係者との共有を図り、施設内での「茶話会」開催の提案も試みる。

(ウ) 孤児や引き揚げ、銃後の体験者への聞き取り

戦争孤児の体験記録はまとまった研究が未だあまり無い分野であるが、元孤児も80歳前後となり体験を語り始める人たちが出てきている。2017年には沖縄戦・南洋戦などで孤児となった人たちの聞き取りをしたが、今年度以降も続けていく。

また戦争を支えた社会を深く理解するためにも、銃後の体験者の聞き取りも行う。特に出征兵士の家族、引き揚げ者、遺族の戦中戦後の生活、90代以上の女性の聞き取りは積極的に行う。

② 戦場体験の語り・継承の記録の収集

日本の敗戦後から現在まで、戦場体験がどのように語り継がれ、どのように受け止められてきたかを、マスコミ情報や当事者らの活動履歴から幅広く調査する。

引き続き以下の資料の収集にあたる。

- (ア) 当時の日記や書類、写真、物品
- (イ) 体験者による記録（手記、著作、絵画など）
- (ウ) 体験者個人、および体験者の団体（戦友会など）が発行した書籍や冊子
- (エ) 戦場体験の語り・継承にかかわる活動の記録

これらの資料は散逸の時期にあり、また保管するご遺族などにとっても解説が必要な物となりつつある。そこで下記のような展示会を企画する。

◎「語り継ぎたい 写真と物と体験の展示会」（仮題） 9月下旬 東京都（茶話会と同時開催）

この展示をとおして、これまでに寄贈された資料の紹介や解説をする。同時に、存在を知る資料について、綺麗な記録の作成や今後の公開許可を得る。さらに多くの文物の収集・記録に協力を呼びかけるきっかけとしたい。

③ 戦場体験の継承にかんする研究

戦後70年以降における戦場体験の継承のあり方を考えるための研究活動を行う。

(ア) 関連セミナー

戦場体験の継承に取り組むうえでの考え方や姿勢、知識を身に付けるため、有識者を講師に迎え公開セミナーを開催する。

(イ) 研究成果の報告

過去のシンポジウムの内容を冊子にまとめる。

沖縄戦・南洋戦民間人被害者の体験談について、冊子化にむけた検討・準備を行う。

## [2] 戦場体験史料の公開、継承（戦場体験史料館）

### ① 戦場体験史料館・電子版

戦場体験のインタビュー記録（インタビューを書き起こした文章と映像）は、あの時代を考えるための大切な史料として戦場体験史料館・電子版で公開する。公開にあたって、第三者による編集は極力行わない。

また、当時の日記や写真、物品などの公開も進める。

史料館の拡充は 2013 年以降は微増に留まるため、作年度新たに選任した担当者の元、1～2 ヶ月に 1 度の集中作業日を設置し目標達成を図る。

#### （ア） 収蔵人数の拡張

2020 年 8 月までに最低でも累計 500 名を超える。

#### （イ） 内容の拡充

当時の日記や写真、物品について、掲載フォームの整備をする。

### ② 語り継ぐ活動

#### （ア） 戦場体験者と出会える茶話会

昨年全国で開催した「戦場体験者と出会える茶話会」は、体験者の証言を直接聞き、対話も出来る場として、幅広い世代に深い印象を残した。

今年は下記のとおり企画する。

#### ◎7 月（時期は予定） 沖縄県

「沖縄戦・南洋戦民間被害者の会」の方々を中心とした茶話会を沖縄で開催、県内でもあまり知られていない戦争孤児や南洋戦の体験に触れてもらう。展示と併せて、PTSD の実態や民間人戦災被害の戦後補償に関する取り組みについても紹介する

#### ◎9 月下旬（時期は予定） 東京都

#### ◎11 月 大阪府 ※開催の決定は全国キャラバンの進捗を考慮して判断する

茶話会参加者によって、学生グループや、空襲体験者による茶話会形式での催しの開催が続いている。開催のためのノウハウをマニュアルとして提供、要請があれば体験者も派遣し、様々な場所や団体で開催されるよう後押しをする。

#### （イ） 戦場体験キャラバン展

昨年は全国 4 カ所で茶話会と同時開催した「戦場体験キャラバン展」から抜粋し、今年は初めて被爆地で長期開催する。

#### ◎8 月 14 日(火)～9 月 9 日(日) ナガサキピースミュージアム

また展示パネルや物品の外部貸出と、その広報活動を行う。

#### （ウ） 交歓会の開催

元兵士と戦争を知らない世代のボランティアの交流の場を 3 月に開催する。

### ③ 戦場体験放映保存運動に関する広報活動

#### （ア） 「史料館つうしん」の発行

2018 年 4 月、7～8 月、10 月、2 月の 4 回発行を計画する。

以上